助役

市長ニハ其ノ意ヲ傳フヘシ

以上

別記中

指令 第十九號 九月十九日 東交爭議團首腦部

支部御中

一、強制調停委員會に備へよ、

十有二日に渉る一万二千市電全火衆の一系乱れざるゼネストの偉力は傲岸不遜なる流石の牛塚市長山下局長を屈服せしめ大暴圧業を留保せしめた。これこそ一万二千全兄弟の決死的斗爭の賜であり我等の勝利への躍進だ。だが問題は漸く解決への緒についたのみだ。今後開かるゝ調停委員會が如何に展開するかは我々にとつて死活に関する重大なる問題だ。しかも調停委員會を有利に展開するには全火衆の戦斗的偉力を絶對に必要とする、火衆の戦斗的圧力なくしては委員會に於て如何に委員[illegible]が戦つても勝利を得ることは不可能である。我々はスト休止の際に於ける余力へ更に斗爭力を加へ調停委員會の決裂に對しては断乎として再度罷業によつて戦はねばならぬ。戦時漏洩を莫りまゝとすることは既に指令したが、スト成功後に於ける調停委員會に於て更に實質的勝利を得るため全支部は充分の準備を進め職場に於ける戦斗的圧力を調停委員會の進行と並行して充分高められべきことを指令す。

二、職首者の部署について

職首された九十五名は整理業の留保と共に當然業發表以前に還り職首は留保されることになるのであるが血迷つた當局は未だ就業することを肯せず市長局長は首腦部との面會を避け逃げ廻つてゐる此の問題は即時解決しなければならないのであるが其の間東交の中堅であり指導者たる職首者は從前通り部會委員會議員の事務を取ると共に部及支部の指導統制の任に當たられたし